

平成 21 年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第 4 回）

日時：平成 21 年 8 月 11 日（水）

14:00～16:00

場所：本庁舎 5 階 特別会議室 A

（事務局）

それでは、定刻でございますので、「平成 21 年度第 4 回北九州市地方独立行政法人評価委員会」を開催させていただきます。

それでは、石田委員長、議事・進行をよろしくお願いいたします。

（委員長）

皆さま、こんにちは。お暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。大体今日で、本年度の評価の案が決定するだろうと思うのですが、よろしく願います。

それでは、まず議題 1 の「平成 20 年度公立学校法人北九州市立大学の業務の実績に関する評価案の決定」について審議したいと思います。事務局より説明をお願いいたします。

《事務局より、「平成 20 年度公立学校法人北九州市立大学の業務の実績に関する評価案」について説明》

（委員長）

ありがとうございました。

前回、この委員会でいろいろご意見も出ましたので、それを踏まえて、市のほうで修正をしていただいたことだろうと思うのです。委員の皆様方、ご意見、ご質問等ございましたらおっしゃってください。

（委員）

今日の直前のご説明ですか、委員長のお話で、 - 35 ページ、グローバル COE のことが挙げられていますね。国際環境工学部というのは、どういうふうに申請を、今、計画されているのですか。あれは領域がいろいろありますね。専門分野によって、年度ごとに評価の委員会がございますよね。

グローバル COE については、どこの分野に出すのが一番いいとか、そういうところまで大学が考えているのですけれども。それから、博士課程の人材育成というのを主に尊重されているのですよね。それに似合うような評定に、修正内容になればなという、これは、むしろ質問というよりも、コメントなのですが。

（事務局）

グローバル COE については、後ほどご回答いたします。

(委員)

早期に押さえてね。

(事務局)

はい。

(委員)

それから、事実上、国立大学で何割くらい、それから、市立大学という形で公立大学どれくらいか。大体そういうのがありますので、組合せによっては非常に有利になる場合もあるんですね。難しくなることもございますけれども。

(事務局)

分かりました。

(委員長)

では、もし分かりましたら、この会議が終わるまでにお調べいただければ、大変ありがたいなと思います。よろしくお願いします。そのほかの件で、どうぞ。

(委員)

1点だけよろしいですか。全体評価の2項目目、前のところで全国を上回る18歳人口の減少というのがありますが、多分、前は北九州市という言葉が入っていたと思うのです。

(委員長)

おっしゃるとおりで、私もここはちょっと質問しようと思っていたのですが、全国を上回る18歳人口の減少傾向という、これはどのエリア、どの地域で言っているのか。例えば、福岡県で言っているのか、北九州市で言っているのか、北部九州で言うのか、そのところがちょっとはっきりしないのでね。

(委員)

前は、「北九州市の減少傾向は」ということだったから。

(事務局)

ここは、「取り組む結果、北九州市においては」とかいう形を取りたいと思います。

(委員)

そうですね、「北九州市では」とこういったものとか、つくのかと思います。

(委員長)

それでよろしゅうございますか。こちらの委員の皆様、何か。

(委員)

私はもう、ございません。

(委員長)

前回、大体問題なかったのですが、今の全体評価なり、あるいは分野別評価のところ、最初に評価をするという順番に入れて、それから、注文なり、要望なりというものをあとにしようということで、少し入れ替えたという点がございます。

それから、ひとつお断りをしなくてはいけないのは、全体評価の最後のところ、これは、前回、いろいろご意見が出ました退職金の積立金の問題で、ここをどこに記述するかということでした。これは年度計画その他、直接かかわるものではないのですが、どこにしようかということで、剰余金のところに入れるかどうかということでしたが、事務局から全体評価の欄に入れていただきたいということで、私が了承いたしました。どうぞ、皆様方、ご了承いただきたいと思います。

大体、そういうことでございます。

ほかに何かございましたら、よろしゅうございましょうか。

(一同「はい」の声)

(委員長)

ありがとうございました。

それでは、この評価については、細かなのは、先ほど「北九州市においては」というようなことでありますけれど、それはもう、ほとんど字句の修正程度で、問題ないと思いますので、今回のこの案、「平成 20 年度公立大学法人北九州市立大学の業務の実績に関する評価結果」を、「当委員会の評価案」と決定してよろしゅうございましょうか。

(一同「はい」の声)

(委員長)

それでは、今回、このようにこれを「評価案」と決定させていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、第 2 の、次の議題に移りたいと思います。次の議題は、「平成 20 年度公立大学法人北九州市立大学の業務の実績に関する評価結果の大学への通知、市長への報告」についてでございます。これについて、事務局のほうからご説明をお願いしたいと思います。

《事務局より、「評価結果の大学への通知、市長への報告」について説明》

(委員長)

ありがとうございました。ただ今、事務局のほうから、評価結果の大学へ通知と評価結果書の市長への報告について、ご説明がありました。何かこれについて、委員の皆様、ご質問等、ございませんでしょうか。特によろしゅうございましょうか。

(一同「はい」の声)

(委員長)

それでは、大学からの意見提出が 17 日までということになっていきますので、もし、大学からの意見がある場合は、少なくとも今週中にご連絡いただくということになりますよ

ね。

(事務局)

そうですね。

(委員長)

大学からの意見があった場合ということで、今週中ということをお願いしていいのでしょうか。

(事務局)

これは、8月17日までに大学が出すということになっていますので、大学の方は17日が締め切りになっていますので、委員の皆様方への連絡は17日以降からになります。

(委員長)

過ぎてから、はい、分かりました。スケジュール的にはそういうことですね。

(事務局)

はい、そういう形で、17日まで待って、もし意見がありましたら、18日に皆様方にご案内をさせていただきます。そのあと、委員長と評価についてお話しさせていただくように考えています。

(委員長)

市長への報告はいつになりますか。

(事務局)

それが終了して、評価が確定してから市長に報告する形になります。

(委員長)

タイムリミットはないわけですか。

(事務局)

9月の決算の議会がございますので、そこで報告という形になります。

(事務局)

それに間に合うように。

(委員長)

分かりました。ありがとうございました。

それでは、特にご意見ないようでございますので、今のような状況で決定させていただきたいと思えます。

続きまして、議題3に移りまして、「平成20年度における北九州市立大学の財務諸表の承認及び剰余金の繰越し承認」についてでございます。これはまた、事務局ほうから、ご説明お願いいたします。

《事務局より、「平成 20 年度における北九州市立大学の財務諸表の承認及び
剰余金の繰越し承認」について説明》

(委員長)

分かりました、ありがとうございました。これにつきましても、委員の皆様、何かございましょうか。よろしゅうございましょうか。

(一同「はい」の声)

(委員長)

はい、よろしゅうございますね。ありがとうございます。これも、先ほどのような形で市長への提出ということになる手はずになります。ありがとうございます。

それでは、最後の議題、4 番目に移りたいと思います。次の議題は、「第二期中期目標・中期計画の策定に係る評価委員会の開催について」、本年度から準備を取り掛かるわけですので、これについて、事務局のほうから、ご説明をお願いしたいと思います。

《事務局より、「第二期中期目標・中期計画の策定に係る評価委員会の開催」について説明》

(委員長)

ありがとうございました。ただ今、ご説明ございましたように、まず、市がこれから見直し方針の案を検討するというところでございます。ここで、委員の皆様方、過去 4 年間の評価を振り返って、やはり少し状況も変わって来ているところもございます。大学の抱えている課題とか、あるいは大学に期待する役割等について、市の検討のテーマとしてご意見がいただければ、大変ありがたいと思いますので、どうぞ、これまでのあれを振り返って、自由にご意見をお出しいただきたいと思います。委員の皆様方、どうぞ、よろしくお願いいいたします。

先ほども、委員のほうからいい意見をお出しいただいていますので、どうぞ、そういったようなことで、この前、私も申し上げておりますが、やはり大学院、特に博士課程は非常に重要ですので、このところをどうするか。この前学長に申し上げたら、学長もそこが一番問題だとおっしゃっていましたので、そういう問題もあろうと思います。どうぞ、遠慮なくご意見を。

(委員)

そしたら、評価のあり方になってしまうかもしれませんけれども、この年度の中で非常に充実した活動をすれば、それが必ずしも年度計画を先取りしてなくても、高い評価を、自信を持って我々ができるような、ただ、そういうふうな解釈を変えていただくとありがたいと思うのです。

先へ行ったということですが、評価できないですね。文言をまともに解釈するとそうなくなってしまっていますよね。そうではなくて、年度ごとに目標の達成の、いわば仕方でしょうかね。そういうことまで評価が出来れば、もっと大学にとっては円滑に進むのではないかなと思うのです。

(委員長)

今のお話と関連して、私も評価のときにちょっと申し上げたのですが、年度計画を我々がここで評価するというのと同時に、計画の進捗に加えて、やはり研究教育にしても質的なものもさらに深められるということになると、大学の評価というのは非常に高くなるだろうと思いますので、その辺のところも少し我々のほうでも分かるような状況が出来てくるとよろしい。要するに、大学としては計画を順調にやっていればということではなくて、やはりその中で深みのある質的なものを進化させるということが大事ではないかなという気がいたします。

(事務局)

今回、何度か委員の方からも成果というような話もございました。仕組みの中で何かそこから辺が出来るようにちょっと工夫してみたいと思います。

(委員長)

よろしく願います。どうぞ、ほかに何か。どうぞ、ご遠慮なく。

(委員)

私も、大学のご説明からだけでいろいろなことを判断させていただくのですけれども、決してそれが自己満足ということではないのですけれども、他の大学と比較をしてみても、それが本当にどういう位置付けなのかというのがよく分からないところがあるのです。大学が出される何とかランキングが何位というのは、ああいうのはちょっと文字として分かるのですけれど、それが本当にどうなのかというのがですね。ちょっとそのあたり、大学側ということではなくて、私は個人的に委員として、ご専門の先生方から一度お伺いしたいなというのがあります。

それから、これは評価と何も関係なくて、今までのヒアリングの中で私がお聞きしたいと思いつつ、ちょっと聞き逃していたのですが、「大学コンソーシアム関門」というのを、今年、挙げられていますよね。それは6大学ということになっているのですが、九州工業大学が入らなかった何か理由というのはありましたか。

(市)

市側が把握している事実だけなのですけれども、関門コンソーシアムを立ち上げるときに、北九州市内と下関市内の大学・短大全部には声を掛けてはいるのです。今回は、ちょっと限定的に、単位互換という部分から立ち上げたものですから、様子見のような形を取られた大学も幾つかありまして、九州工業大学に関しては、お誘いは差し上げましたけれども、いろいろな大学側の事情から、今回はちょっと立ち上げのときには見送らせていただきたいと。ただ、今後に当たって絶対参加しないというわけではなく、地域貢献やいろいろな部分でいずれ参加する可能性もあるという含みはいただいたそうです。

ただし、もう1つ問題がございまして、関門コンソーシアムそのものがいろいろな部分で国立大学に対して、今、関門コンソーシアムに市からの直接の助成は入れているのですけれども、国立大学に自治体からの助成金というのが入れにくいといういろいろな問題がございまして、たまたま今、北九州市立大学が事務局をしているという関係で、北九州市立大学に関門コンソーシアムへの補助金を出しているのですが、もし、九州工業大学が参加して、そこが事務局を受けたときに、補助金をどういう形で入れるかとか、ちょっとい

ろいろな問題も出てくるという部分も一つあります。

(委員)

何か、国立大学だから難しかったのかなとか、ずっといろいろ思ったりしたのですけれど。

(市)

さようでございますね、そういう意味では、工業大学そのものがちょっと引き気味だったというのは、一つそれもあるとは思いますが。

(委員)

はい、分かりました。

(委員長)

ありがとうございます。ほかに何か。どうぞ、この際ですから、評価が終わったあと、そのほか評価に関連して、あるいは今後の計画等に関連して、ご意見がありましたらお願いいたします。

(委員長)

トータルで私の感じでは、まあまあ、北九大、計画通りきちんとやっていますし、かなり進んでいる部分もありますし、改革が順調にまあまあいっているだろうと思うのです。ただ、何ていうのでしょうか、だからといって評価委員会というのは、やはりそれをきちっといろいろな観点から評価する必要がありますので、先ほど、委員もおっしゃったように、ランキング評価とか、ただそういうものだけではなくて、やはりそれこそ、あめとむちではないですけども、評価するところは評価する。

それからやはり、厳しく要望するところは要望するというようなことが大事なかなという気がしておりますので、今後ともそういう方向で。もちろん、市の立場もでございますから、難しいとは思いますが、やはりこれからの大学の在り方としてどういう方向が望ましいのかということ、きちっと評価し、それからきちっと要望し、委員会として出すべき意見は出すべきではないかという気がしております。

(事務局)

そうですね。私ども評価委員会の事務局ということを実際に肝に銘じて、大学の事務局はまた別におるわけでございますので、事務方のほうもしっかり支えて頑張っていきたいと思っております。

(委員長)

どうぞ、ほかにご意見、よろしゅうございませうか。特にご意見、もうこれ以上ないようですので、また、これは具体的な段階になったときに、いろいろ出てくるだろうと思うのです。そういうことで、今日のところは以上のような総論的な話で終わってしまいましたけれども、議題4についての審議を、これで終了したいと思います。

そのほか、何か事務局から、ご説明ございましたら。

(事務局)

では、グローバル COE プログラムを調べてまいりました。

北九州市立大学が19年度にこの制度を開始しておりまして、19年度、20年度と北九州市立大学が申請しております。分野に対しましては19年度が5分野ございます中で、「生命科学」、「化学、材料科学」、「情報、電気、電子」、「人文科学」、「学際、複合、新領域」という5分野ございまして、その中で申請しているのが「学際、複合、新領域」という分野でございます。「学際、複合、新領域」の分野に関しまして、大学申請件数が71大学、105件ございました。そのうち、公立大学が9大学10件の申請をしております。19年度ですが、その中で公立大学9大学10件のうち、採択されたのが3大学3件と。ちなみにこの3大学というのが、大阪市立大学、静岡県立大学、兵庫県立大学ということで、北九州市立大学は申請をしていたけれど、漏れてしまったというような状況でございます。

次は20年度でございますが、これもまた5分野なのですが、「医学系」、「数学、物理学、地球科学」、「機械、土木、建築、その他工学」、「社会科学」、それと同じように「学際、複合、新領域」という5分野で申請を受け付けているようです。20年度に関しまして、同じく北九大は申請をしておりますが、分野は「学際、複合、新領域」でございます。公立大学は「学際、複合、新領域」で7大学8件、20年度申請しております。ただ、採択されたのは、0大学0件という結果です。

21年度に関しましては、北九大は今回申請していないというふうな話のようでございます。すみません、これまでしか分かりませんが。

(委員長)

今のは、ここに出てくる66の戦略的創造研究推進事業、CRESTに指定されたとありますね。これは別なのですか、今のやつと。

(事務局)

別ですね。COEプログラムとは別の事業という話のようです。

(委員)

一般の「学際、複合、新領域」というのは、応募数が非常に多いので難関ですね。しかし、分野を特定しにくいとなればやむを得ない。

(事務局)

19年度は5分野、20年度は5分野あるようです。

(委員)

これは毎年代えているわけで、2年間で一巡する形で。

(事務局)

ええ、ただ21年度が1分野、「学際、新領域」分野だけの募集だったようです。来年度以降、どうなるのかまだ分からないという話ですが。

(委員)

今年度は「学際、新領域」だけでいいという話なのですね。

(事務局)

今回はそのようです。

(委員長)

これは内容と同時に、多少地域性があるというのも考慮されるのですよね。だから、北九州市にとってプラスになるような、そういう分野に申請を出すと、また面白いのかと思いますね。分かりました。よろしゅうございますか。ありがとうございました。

それでは、委員の皆様、評価および委員会と、大変この暑い時期に、先ほど事務局のほうからもございましたように、非常にタイトなスケジュールで、いろいろ大変だったと思いますが、本年度、一応これで評価のほうは終わりということになります。

本日の審議はこれで終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。